

いんげん 歳時記

◆先祖長谷川家のルーツを訪ねて

新入会員・鈴木友和氏来訪

三月二十九日、西宮市から鈴木夫妻が来訪された。鈴木氏の祖母は旧佐伯藩士長谷川家の出身で、この長谷川家は明治初期頃大阪へ転出したという。

鈴木氏は退職後先祖のルーツを調べようと古文書講座を受講して備え、以前にも佐伯市を訪れ藩政史料を調査されたようで、「長谷川姓の一覧表」を作成していた。しかしその血脈を伝える系譜はないかと探しておられた。

藩政史料によると、長谷川家は毛利高政公の代に勤め、召し出された年月は不詳だが、元和五年正月に高政から鉄砲書物を拝領した。と記録されてい

る。当初は百石取の家臣であったが、六代高慶の時代には家老職を勤めるまです世している。ところが明治三年の禁固騒動に兵隊党の長谷川七十郎等が捕縛される事件も起こっている。

まずは並河正明氏所蔵の系譜や戸籍簿から明治前後の血縁関係が判明した。また山際の坂本格氏が「御家中血縁系図」を持っておられ、その中に長谷川家の系譜も記録されていた。

高政公御代、慶長十九年八月二日、二代目百石。本国摂州住人、本姓小笠原氏。

初代長谷川左大夫から先述の七十郎までの系譜が書き込まれており、他氏の系譜から複雑な血縁関係が見て取れる。思わぬ進展に鈴木氏は「興奮冷めやらぬ」思いで帰途に着かれた。今後の研究成果が期待される。

鈴木友和氏の略歴

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 昭和 13 年 7 月 | 広島市で出生 |
| 昭和 32 年 3 月 | 福岡県立修猷館高校卒業 |
| 昭和 38 年 3 月 | 九州大学医学部卒業 |
| 昭和 62 年 6 月 | 大阪大学医学部助教授（第三内科） |
| 昭和 63 年 6 月 | 九州大学教授（生体防御医学研究所
臨床遺伝学部門） |
| 平成 10 年 4 月 | 公立学校共済組合近畿中央病院院長 |
| 平成 18 年 4 月 | 公立学校共済組合近畿中央病院名誉院長 |



古文書歴

平成 15 年から NHK 学園通信講座を受講、全 4 課程を修了。平成 18 年から NHK 学園西宮オープンスクールで古文書教室を受講中。

◆緒方三郎惟栄の歌碑竣工祭

四月十九日、豊前市の会員緒方佳志枝さんから御案内を頂き、佐伯史談会より四名（真柴・小野・河野・佐藤）が参加した。午前中は緒方三郎惟栄の慰霊祭神事が行われ、午後から歌碑の除幕式がおこなわれた。

二〇年ほど前、渡辺澄夫氏が「源平の雄・緒方三郎惟栄」を執筆されたが、



除幕された歌碑：緒方三郎惟栄を讃える詩



緒方佳志枝さん

緒方町ではその機会に緒方氏同族会を発足させ、共に緒方惟栄を顕彰する慰霊祭を行ってきたようである。

その同族会員も年々減少して今や緒方佳志枝さん一人が取り仕切っている状況、歌碑の竣工を以て新たに「緒方三郎惟栄を顕彰する会」を発足させ、後の慰霊祭は地元民へ移行させるつもりの方である。

◆緒方惟幸氏念願の梅牟礼城跡行

大阪在住の会員緒方惟幸氏は五月の連休を利用して佐伯惟教所縁の城跡を巡る旅を企画した。



八幡浜港から萩森城跡を望む

五月六日、八幡浜萩森城跡（宇都宮房綱居城）は西四国考古学研究所の清水真一氏の案内で狭いミカン山の農道を登り、八幡浜港や市内を眼下に詳しい説明を受けた。

午後は西予市野村町の白木城跡（宇都宮乗綱・緒方藤藏人居城）を登る。登山口から地元保存会による古い地名や遺構の案内板が充実している。本丸

から六の郭（遠見ヶ岩）まで散策して戻る。

七日は八幡浜フェリーで佐賀関に渡り烏帽子嶽城跡（佐伯惟教守備）に登る。城山公園としてツツジや桜が植え込まれ整備されている。戦時中は豊予要塞としての遺構も残っている。

午後は佐伯の梅牟礼城跡（歴代佐伯氏居城）、弥生蕨野の林道を利用して八



西予市野村町古市から白木城跡

合目の駐車場から歩いて登ったが、山頂付近は四つの山城の中で最も険しい登山路であった。

中世の山城は見晴らしの良い山の尾根を利用して山を削ったり土盛りしたりして加工された地形で、近世城郭のように石垣が築かれているわけでもない。険しい山上にあつて訪れる人も少ないため一度整備されてもすぐに荒れてし



佐賀関港より烏帽子嶽城跡

まうのが難点である。草や木は瞬く間に生い茂って、折角の遠望も妨げられている。

緒方惟幸氏一行は所期の目的を達して佐伯に一泊して帰られた。

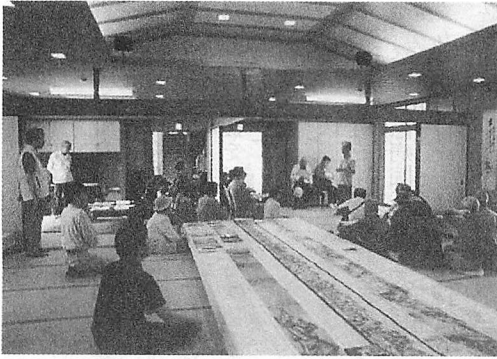
◆善教寺「小栗布岳展」開催

六月二十三日から二十六日まで善教寺で開催された。初日に佐藤巧が「小栗布岳の世界」と題して講演、佐伯と日田との関わり特に藩校四教堂と日田咸宜園の関係を説明し、咸宜園出身の布岳の事績や作品を紹介した。

日田教委では「佐伯史談」の発表を



梅牟礼城跡にて



「小栗布岳展」善教寺会場風景

待ち、この展示会に向けて、「布岳の咸宜園図」発見!!を日田市記者クラブに呼びかけたので、各新聞社が競って特ダネ記事として掲載した。
また善教寺では門徒衆二千戸にパンフレットを配布していたので宣伝効果は行き届いて、会期中の入場者は五百人を越えた。

◆佐伯開市四百年祭の主唱者

賛助会員・高山善吉氏逝く

五月三〇日、西日本産業会長・現商工会議所最高顧問の高山善吉氏が九十四歳の生涯を全うされた。

昭和四十二年頃、高山善吉氏は佐伯史談会の活動に賛同され、佐伯ロータリー会員四〇五〇名をこぞって賛助会員とされ、側面から佐伯史談会を支援された。以来今日まで四〇年、最古参の賛助会員であった。

佐伯の産業経済界の第一線で貢献され常に佐伯の活性化に向けた提言を怠らなかつた。九十歳になってなお向学の志を失わず政治経済の時事に通じ、また佐伯史談を座右の友として温故知新の町づくりを構想していた。

九十二歳から佐伯市倫理法人会の顧問としてモーニングセミナーのスピーチを始め、今年三月まで九〇回に及ん



佐伯商工会議所
会頭時代の高山善吉氏

だ。内容は佐伯の歴史・文化・産業・経済・観光等々、人生九〇年の経験と知識を集大成したものである。
最後のスピーチ原稿には

最後のスピーチ原稿には
『慶長十三年（一六〇八）藩祖毛利高政公が鶴屋城竣工後、城下町の建設に掛かった記念すべき「開市四〇〇年」を迎えますので、戦時中に被爆焼失した「毛利神社」の再建と、わが郷土佐伯出身の先哲・偉人・学者を紹介して先人の遺業を学び顕彰し、佐伯市を訪れる外来観光客に佐伯の歴史と文化を紹介

する「郷土資料館」の建設を發起・提唱するため、私は来る三月二十五日上京して郷土出身者並びに関係者に賛同を求め、この事業の推進に御協力を求めることにしておりますので、皆様に格段の御支援をお願いする次第であります。』

と締めくくっている。

上京の大役を果たしてホッとしたのか、長門記念病院に入院され、そのまま五月三〇日に大往生を遂げられた。佐伯市民に「開市四〇〇年祭」の置き土産を残して：。

高山善吉氏のスピーチ原稿は「佐伯史談会のお役に立てれば：」と、上京直前に本人からお預かりしたので、「高山善吉翁遺稿集」として編集し、佐伯史談会誌にも掲載し善吉翁の遺徳を偲びたいと思う。

◆史談会前々会長汐月三代吉氏病没

六月十三日、汐月三代吉氏の葬儀が柴田斎場で行われ、同級生木許博氏が弔辞を述べた。

氏は青山村黒沢の出身で、川澄化学退職後、出身地黒沢村の史跡調査に取り組み「黒沢史考」を完成、領域を広げて「青山史考」、「堅田史考」その他多くの史料を収集編纂した。後に発刊された「船頭町消防百年史」は実に数年がかりの労作であった。

平成十年、佐伯史談会会長に就任して「四〇周年記念事業」を敢行し、持ち前の行動力と地道なデスクワークで史談会を牽引しようとした矢先、奥様の脳内出血で介護のやむなきに至り、自らも脳梗塞で倒れられた。

以後は海崎の新居で夫妻共々リハビリの闘病生活に入ったが、なおパソコンに向かい、やり残した資料やアルバム



会長就任の頃の汐月三代吉氏

ムの整理に余念がなかった。カラー刷りの小冊子を手作りしては同朋に配布していた。

最後の編集となったのが「東光庵の桜」である。これは独歩会の花見に配布するため作成されたと思われる。また自ら介護タクシーに乗って桜を写しに訪れたという。これが目にした郷里黒沢の最後の景色であった。

この頃までは来訪者に笑顔を絶やさなかったが、既に末期ガンの宣告を受け覚悟していたのであろう。四月末に入院してそのままになった。病室で奥様に「もう逝ってもいいか」と声をかけたという。

かつて手がけた「青山史考」を再度、完全なカラー印刷にしたいという念願を遺族に託していたという。

◆表紙解説

黒沢東光庵の桜。明治十年西南の役に官軍がこの庵に本営を置いたという。後に国木田独歩が訪れた。また毛利高範公と訪れた谷謙一郎は桜樹の寿命を毛利家三百年の歴史に比喩している。このとき既に野津將軍の伝説が生じていた。大正三年八月巨木は倒れたが小さい一株だけが残り、現在もなお人の目を喜ばしている。

◆新刊図書等の紹介

『密命』佐伯泰英著

著者が初めて時代小説を書いた。それが佐伯藩の佐伯文庫をヒントにした作品で、番匠川や船頭町の地名も登場する。既に四〇〇万部を突破して一躍ベストセラー作家となり、五、六月にテレビ東京がドラマ化して放映された。現在十九巻が出版されている。

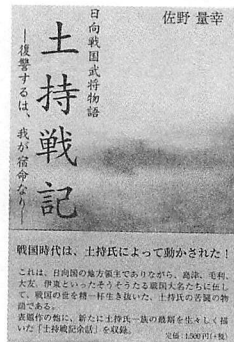
県や市の観光課はこれを目玉にした観光客の誘致を進めている。



『土持戦記』佐野量幸著

日向（延岡）松尾城主土持氏の滅亡

をテーマにした物語で、大友宗麟の侍大将佐伯惟教が登場、また佐伯惟定の堅田合戦の様子などが詳しく描かれている。
一、五〇〇円（税別）



『さいき花へんろ』佐伯文化交流協会

佐伯四国八十八ヶ所を紹介、地図や写真を付けており巡拝の手引き書として最適である。

